

鬼五郎



大多鬼丸



坂上田村麻呂



伝説の登場人物以外に、鬼の化身や歌の化身が物語の象徴として奥行きを与えます。

歌乃化身



鬼乃化身



幡五郎



田村市の歴史・伝説として語り継がれる「鬼伝説」
田村市地域ブランディング事業

始動

「田村市地域ブランディング事業」
地域の歴史・伝説を基に「鬼」を核として田村市の認知と関心を引き起こし、観光誘客、シビックプライドの醸成、ふるさと納税などの財源確保を目的とするものです。
※ブランディングとは、商品や企業の価値を認識してもらう「ブランド」をつくり上げていくための活動です。



ショートアニメ制作と商品開発

坂上田村麻呂と大多鬼丸、鬼五郎、幡五郎をはじめとする「鬼」伝説を基に、ショートアニメを制作し、キャラクターやストーリーを活用して、旅行商品やふるさと納税用商品などの開発をしていくものです。ユーザープロ広告の活用により多くの方にアニメを見ていただき、開設したウェブサイトでさらに関心を深めていただきます。
今後は、アニメキャラクターを地域の事業者の商品ラベルなどに活用していただく予定です。

プレス発表会

昨年12月14日、市役所で「田村市地域ブランディング事業」のプレス発表会を開き、新聞各社・各テレビ局へ事業概要を紹介しました。

当日は、鬼五郎幡五郎太鼓の演奏から始まり、市長による事業趣旨の説明の後、受託事業者の株式会社XPJP代表渡邊賢一さんから事業内容の説明と事業関係者による特別対談を行いました。

【特別対談時の菅井副市長のコメント】

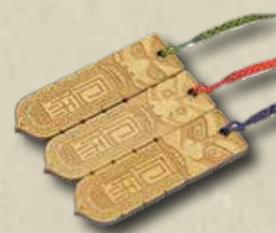
戦争は、勝てば官軍負ければ賊軍が普通ですが、この地域では坂上田村麻呂も大多鬼丸たちも英雄としてみられており、地域の人の心の温かさがそうさせたのだと思います。田村市の由来となったともいわれる坂上田村麻呂ですが、ゆかりの寺社仏閣などが30カ所以上あるので市民の方にも知ってもらうきっかけになればいいと思います。海外でイベントをした経験がありますが、鬼、サムライ、忍者は行列ができる素材なので、世界中に田村市を広げていき、市民の方にも地元資源に親しんでいただきたいと思っています。



クラフトビール-アブクマレッド (オニタムララベル)



お人形様と「鬼タムラ」をロゴにデザインしたTシャツ



「お人形様」をかたどった守り札



鬼米 (田村市産米) オリジナルキャラクターラベル

コラボレーショングッズ

オニタムラストーリー (伝説)
坂上田村麻呂は、郡山市田村町で生まれました。大和朝廷から征夷大将軍に任命され、東北征伐を命じられます。そこで、当時の田村地域の豪族、大多鬼丸や鬼五郎、幡五郎は地域の人を守るため立ち上がります。東北方の人間は、得体の知れないもの、恐ろしく強いもの、「鬼」として大和朝廷から恐れられていました。
この地に立った坂上田村麻呂は、鞍掛山から3本の鎬矢を放ち、片曾根山をかすめて大鎬矢神社、滝根町菅谷の矢立松、矢大臣山に落ちたのを見て、大多鬼丸のいる大滝根山への軍勢の行方を定めました。途中の明石神社で軍議を開き、石に座って夜が明けるまで作戦を練りました(この石が夜明し石と呼ばれた)。明石神社の由来になりました。田村麻呂が大滝根山へ行軍する中、うっそうとした原生林と湿地で難渋していた時、清水寺の千手観音菩薩を思いついて救いを求めると一筋の光が白鳥に姿を変え導いてくれたのです(後にこの地に白鳥神社として祭られています)。
大多鬼丸の本拠地、大滝根山は、石灰岩で白く光っていたことから、白銀城と呼ばれていたといわれています。各地で善戦した

オニタムラ伝説の地



大多鬼丸によって、一度、田村麻呂は破れてしまいます。小野町の東堂山へ撤退した田村麻呂が、京都清水寺の僧延鎮から持たされた木馬へ願いをかける。100頭の生馬に変わり、軍勢を盛り返します(この伝説が三春駒の由来となっています)。
仙台平で決戦を迎えると、ついに田村麻呂は大多鬼丸軍を破り、大多鬼丸は鬼五郎と一緒に鬼穴(あぶくま洞に続く洞穴)で自刃したのです。(この時、大多鬼丸が「千年先までこの地を治めたかった」と言って果てたことから仙台平となったと言われています)。
幡五郎は、兄の意思を継ぎ豊かな里づくりに励み、言い伝えが広まりました。(田村歴史観光協会「征夷大将軍坂上田村麻呂公と北東の英雄大多鬼丸との戦い」より)



田村市地域ブランディング事業